

平成 23 年度のワークショップが終了、24 年度も継続して行います！

● 参加者の皆さま、ありがとうございました。

第 7 回「鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」が、3 月 17 日（土）に開催され、平成 23 年度の協議を終了しました。

平成 23 年度は当初 5 回開催の予定から「より議論を深める」ため、開催を 7 回に増やしたことなどから、より多くの意見が出され、参加者同士の相互理解を進めることができたものと思います。

開催当初は運営方法や議論の進め方に様々な意見が出され、なかなか本題へ進めませんでしたが、第 3 回以降はグループ討議が本格的に行われ、最終的には参加者の情報共有が図られ、漁業の抱える諸問題についての理解が進んだものと思います。

参加者は、様々な思いからワークショップに参加しているので、多岐にわたる意見が出されましたが、グループワークでは参加者同士で解決策を探り、建設的な議論も数多くありました。

鎌倉市では、平成 23 年度のワークショップの成果や意見を踏まえながら、今後も鎌倉地域の漁業や漁港の在り方など水産業振興に向けた市民との合意形成を進めて参ります。事務局として、ご多忙の中、ご参加、ご協力いただいた参加者の皆さまには、ここで改めて感謝の意を申し上げます。



第 7 回ワークショップの会場

● 第 7 回ワークショップの概要

開催日時：平成 24 年 3 月 17 日（土） 10：00～12：00

開催場所：鎌倉市役所 811 会議室

参加者：市民参加者：公募市民 11 名、関係団体 9 名
合計 20 名

傍聴者： 22 名

ファシリテータ：齋藤潮氏（東京工業大学大学院
社会理工学研究科教授）

プログラム：

第 1 部

- ① 第 6 回ワークショップで出された意見
- ② ワorkshop「中間報告書（案）」について
- ③ 意見交換

第 2 部

- ④ 今後のワークショップの在り方について
- ⑤ 意見交換

その他、今後の予定など



参加者からの意見を聴く事務局

● ワークショップ報告書について

第6回ワークショップで、事務局より提示した中間とりまとめ（素案）に出された意見により、修正を加えた中間報告書（案）を作成して、事前に意見照会を行いました。

第7回ワークショップでは、さらに修正を加えた中間報告書（案）について協議が行われ、ワークショップの名称など一部事務局に取り扱いを一任された項目以外は、一定の結論が出されました。その中で、今回の中間報告書をどう扱うかについて、「これを中間報告として、平成24年度に更なる議論を加えて最終報告とする」案や、「メンバーからの意見は十分に出されたので、これを報告書とするべき」などの意見が出されました。その結果、中間報告書ではなく、平成23年度報告書としてとりまとめることになりました。

【ワークショップの名称】

これまで「（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」としてきたワークショップの名称についてそのまま「漁港」と記すか更に「漁業」や「環境」を加えるかについて議論がありました。参加者からは「漁港」では建設ありきでの議論と受け取られないか、「漁港」には漁業や環境、観光など多くの内容を含めることができる、といった意見が出されましたが、最終的には事務局に取り扱いを一任されました。

事務局で検討した結果、このワークショップは「鎌倉地域の漁業」と「漁港」について考え、意見を提出するという開催目的を鑑み、「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ」とすることとしました。

【ワークショップの成果】

中間報告書（案）では、ワークショップの成果として、特に重要と考えられた「漁業者と漁業関係者以外との意見交換」と「水産業の将来ビジョン」について詳しく記載していましたが、その後列記されている6つの意見こそが成果であるとする意見が出され、一部追記し、以下を平成23年度のワークショップの成果としました。

～6つの意見～

《鎌倉地域の漁業が抱える問題への理解》

漁業者と漁業関係者以外との間で、話し合えたことで情報が共有でき、漁業が抱える諸問題について理解が進んだ。

《漁港建設の困難さ》

漁港建設が前提であるべきではなく、現時点では経済的にも、また東日本大震災を踏まえると時期的にも無理がある。まずは、段階的に実行可能な対策から早急に講じるべきである。ただし、将来に亘り漁港建設を否定するというものではなく、今後も継続して議論すべきである。

《水産業振興・支援の必要性》

漁業者への支援策は、観光資産としての発展も期待されることから、今後は、水産業振興の議論を続けるべきである。

《ビジョンの明確化》

行政、漁協の水産業振興に対するビジョンが示されるべきである。

《市民が求める情報》

漁港建設を議論するためには、より細かな資料（環境アセスメント、費用対効果分析など）の提示が必要である。

《漁対協答申に対する代替案の検討》

過去の議論や結論にとらわれず、広く市民からの意見を聴取し、漁港施設のあるべき姿について比較検討を進めるべきである。

【資料編の添付】

報告書の内容を補足する目的で、第1回から第5回までの全てのグループワーク成果も資料として添付することになりました。また参加者から、過去に行われた鎌倉漁港対策協議会と本ワークショップの違いを理解するための比較表が提案され、資料として添付することになりました。ただし、それぞれの目的や開催に至る経過が異なることから、表現には留意する旨の意見が出されました。

事務局では、これらの意見をもとに校正を行い、『平成23年度 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書』及び『資料編』としてとりまとめました。なお、本報告書は鎌倉市のホームページで公開しています。ぜひ、ご覧ください。



参加者からの沢山の意見は、会場前に張った模造紙に次々と書き出します。(橋本氏)

● 今後のワークショップの在り方について

今回のワークショップでは、参加者それぞれの立場や考え方で、様々な「今後への思い」があることが分かりました。

事務局では、平成24年度のワークショップについて、これまでの参加者にそのまま継続してご参加いただくことを提案し、参加者からは新たな参加者公募も視野に入れたワークショップの開催運営の要望がありました。

参加者からは、今後のワークショップに対して次のような提言が出されました。

- ・必ずしもこれまでの参加者に拘らず、新たな追加メンバーも公募してはどうか。
- ・行政の参加しない市民によるワークショップも検討する。
- ・現地でワークショップ（フィールドワーク）を行ってみる。 など

● 平成24年度のワークショップ予定

平成24年度のワークショップは、平成23年度の継続として5回程度開催する予定です。検討テーマは参加者と協議の上決定しますが、鎌倉の漁業や漁港の在り方に加え、より広義な水産業振興まで議論を進め、市民目線からみた制約事項や要望事項、優先して解決すべき事項などについて、現地見学会も交えながら議論できればと考えています。

平成24年度第1回（通算8回目）のワークショップは6月30日（土）午前10時から正午、市役所第3分庁舎講堂にて開催する予定です。

なお、その後のワークショップ開催の詳細は、決定次第、鎌倉市ホームページでお知らせいたします。

鎌倉市のホームページに『鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ』を開設しています。ワークショップ配付資料や会議録、平成23年度報告書などがご覧頂けます。

ホーム>産業・まちづくり>水産業>鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

アドレス：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sangyou/workshop/kamakurawk.html>

◆◇◆◇◆鎌倉の海、漁業、レジャー◆◇◆◇◆

鎌倉の海は、海洋レジャーの発祥地！

日本では元々、海水浴をする習慣がありませんでした。西洋でも初めは医療行為（日本にも古くは鎌倉時代から同様の記録がある）としての海水浴はありましたが、レジャーあるいはバカンスとして海水浴を楽しむようになったのは近代に入ってからです。

江戸時代から観光地だった鎌倉や江ノ島は、幕末のころから外国人が訪れるようになり、美しい海を見た彼らが思わず海水浴をしたことから、その発祥地とされています。また、マリンスポーツの代表格であるサーフィンは戦後、駐留米兵が楽しんでいたのを見た若者が始めたと言われていて、鎌倉は鵜沼（藤沢市）や鴨川、太東（千葉県）などと並んで発祥地とされています。

この他にも、セールボートやウィンドサーフィン、パドルボーディングなどが楽しめる鎌倉の海は、まさに日本の海洋レジャー発祥発展の地なのです。

江戸時代にサーフィン？

ところで、江戸時代の文献には出羽国湯野浜（現在の山形県鶴岡市付近）で一枚板を使って子供たちが波乗りする「瀬のし」の記録（1821年）があるそうです。

ボディボードのルーツとも言えますが、近代に入ると体だけで波に乗る「所謂湯野浜流波乗り」なる大技も完成されたとか。日本人が独自に考えた波乗りのことを考えると、やはり私たち日本人は海が好きなんだ、と思わずにいられません。



♠ ♠ ♠ 編集後記 ♠ ♠ ♠

昨年、日本は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われました。1年が過ぎても未だ避難生活を続ける多くの人々が居ることに胸が詰まります。少しでも早い復興を祈りつつ、私達も微力であっても被災地のためになれば協力したいと思う日々です。

それでも季節はめぐり、鎌倉の海にもまた賑やかな夏の日がやってきます。その海で育った美味しいワカメや魚たちを地元の漁業者が獲り、それを市民が笑顔で味わう。そのためのワークショップが開催できたことは大きな一歩でした。継続して行われる予定のワークショップでは、より有意義な議論が進められるよう準備していきます。

ご多忙の中、ご参加いただいた市民の皆さまには大変感謝しております。ありがとうございました。
ワークショップ事務局

発行者／事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

TEL：0467-23-3000（内線 2481） FAX：0467-23-7505

市 HP： <http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>

編集：（財）漁港漁場漁村技術研究所